

ドイツの人種差別・他民族排斥運動

投稿者：：

Posted on : 2014-3-8 9:32:59

ドイツにはヒトラーを始めとするナチスによるユダヤ人迫害のホロコーストの惨い歴史がある。再びこのような民族虐殺を決して繰り返さないように、ドイツは政治や社会、組織の動向に特別な注意を払っている。

それでもドイツでは、ごく少数ではあるが、他民族排斥運動の組織や運動がくすぶる。

NSU – Nationalsozialistische Untergrund (極右テロ組織)

NPD – Nationaldemokratische Partei Deutschlands (極右政党)

等の組織がそうである。 何れも他民族排斥を唱えている。

よって、ドイツ警察関係は監視に勤めている。

更に元ドイツ連邦中央銀行重役Sarrazin氏も、本を出版などして、他民族排斥を強く主張している。

NSUに至っては、2000年から2006年に間に、8人の移民トルコ人、1人のギリシャ人が、何者かに殺されているが、警察は状況判断からNSUの仕業と見ており、よってNSU-Morde (NSU殺人シリーズ)と呼ばれている。 しかし証拠不十分で起訴には至っていない。

このような状況で、EUの反人種差別委員会はドイツに対し、その対策が不十分であるとの警告を出している。

事実、他民族排斥や人種差別による暴力がドイツでは多くなっている。

また、NPDによるヘイト・スピーチ (Hassreden)も見逃せないと警告している。

<注>

中間は日本にドイツの大戦の反省を見習えと主張する。 しかしドイツにこの事実がある事は言及しない。 そしてこうした運動は日本にはない事も言及しない。

つまり、中間の言及は自分の都合の良いように解釈するだけで支離滅裂なもの、全く論議に値しない、愚かな主張なのだ。